



学校だより

令和7年 9月17日(水)
No.5

諏訪市立上諏訪小学校

個別懇談会・通知表について

9月19日(金)から個別懇談会が始まります。個別懇談会では、お子さんの学習・学校生活の状況等をお伝えしながら「通知表」をお渡しさせていただきます。ここで「個別懇談会」・「通知表」について、ご説明させていただきます。

1 個別懇談会や通知表の目的は

個別懇談会の実施や通知表をお渡しする目的は、

「子どもの現在の様子を保護者の方とよりよく共有し、今後の学習や学校生活を自分なりによりよくすることにつなげたい」 ことにあります。

通知表の文字だけでは伝わりにくい内容もありますので、懇談会では保護者の方に具体的な様子やエピソードも交え、分かりやすくお伝えします。また保護者の方が感じていることも担任と共有することができます。(なお、懇談がありますので前期は「総合所見」の記載はありません)

そして、個別懇談会や通知表が

「子どもが学校生活に自信をもち、さらに意欲を高め、元気の出るもの」 となるように、学校としては考えております。

個別懇談会や通知表から、課題を見つけて今後に生かさなければ・・・と思いがちですが、前期(4月から9月)の頑張りをたたえる場・賞状のようなものととらえていただき、頑張りをしっかりほめて認めていただければと思います。「よくがんばったね」の声かけが、「次もがんばろう」につながるはずです。

「はげましを受けて育った子は 自信を持ちます」

「ほめられる中で育った子は いつも感謝することを知ります」

(「アメリカインディアンの教え」作：ドロシー・ロー・ノルト より)



2 「通知表」の評価の観点、方法等について

① 3つの観点

2020年から始まった現行の「学習指導要領」により、各教科の評価項目は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」という観点別評価で行われるようになりました。

「観点別評価」による通知表の項目及び評価の方法や見方について、2年生の国語を例に挙げて説明します。

評価の観点	評価項目
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

かつては、国語の評価で言う「積極的に発言をしている」「習った漢字を覚えて書ける」「書かれている内容を正しく理解できる」「正確に聞き取ることができる」「すすんで読書をしている」などのように、内容や単元そのものの力がどうかを評価してきました。しかし「観点別評価」では、学習した様々な内容を3つの観点から分類し、それぞれの習熟度がどうかを評価します。

② 評価の方法 ～ 評価はテストだけではありません ～

では、各観点を具体的にどのような方法で評価するのかということですが、2年生の国語の場合は次のようになっています。

評価の観点	評価する具体的な方法
知識・技能	テストの結果や授業の様子、書く・話す・聞く など
思考・判断・表現	テストの結果、授業中の発言の内容、ノートやワークシートへの記述、教科書の内容の読み取り、作成した作文、発表、グループや学級における話し合い など
主体的に学習に取り組む態度	発言やノートの記述等から見られる粘り強く学ぼうとする姿勢、読みの感想や本の紹介・作文などで、自分で学習計画を立てたり、自分の考えをもち伝えるように表現しようとしたりしているかどうか など

※あくまで2学年の国語の場合です。教科等により「評価する具体的な方法」は変わります。

③ 評価はABCで ～ Bが多くて大丈夫なのか ～

このような方法をもとに、一人一人の学習状況を観点別にA、B、Cで評価します。評価していきますと「B評価」がとても多くなります。よって、これまでの感覚で通知表をご覧くださいと「Aが少ない」「Bばかりなので成績が良くないのでは」と思われるかもしれませんが、「B評価」であれば『各観点に沿った力が身に付いている』とご理解ください。

これは、体育なども同様です。個々の足が速い、水泳やボール運動等が上手ということだけではなく、育成すべき資質・能力（評価項目）が育まれているかを、それぞれの教科の中において3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）で評価していくということです。

※学年により、国語、算数などは単元テスト等による成績分析を配布いたしますのでご確認ください。

④ 「行動の記録」について ～ 特に頑張っていた 光っていた項目に◎ ～

10の観点で評価します。ここでは、見ていただく際の留意点についてお伝えします。

評価の観点	評価する具体的な項目
基本的な生活習慣	礼儀正しく行動し、節度を守り、節制に心がける。
健康・体力の向上	心身の健康と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	より高い目標をもち、課題に対し根気強く努力する。
責任感	自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活していこうとする。
思いやり・協力	思いやりと感謝の心をもち、協力して集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	自然を愛するとともに、生命あるものを大切にします。
勤労・奉仕	働くことの意義を理解し、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	誰に対しても公正・公平に行動する。
公共心・公德心	きまりを守り、文化や礼儀を大切にし、学校や人々の役に立つことを行う。

10項目のうち「たいへんよく当てはまる」項目に◎、「あてはまる」項目に○、「後期に努力してほしい」項目に△を付けています。そのため、行動の記録についても、ややもすると「◎が少ない」「生活態度があまりよくないのでは？」となりかねませんが、そうではない（◎は最大でも3つである）ことをご理解ください。

前期、すべてのお子さんが自分の出来る頑張りをしました。「A、B、Cの数がそれぞれいくつだからできた、できない」とならないように、また、他者と比べることなく、是非よい姿を伝えていただきながら、後期の頑張りにつながるお話をしていただけました幸いです。

「『比べない』ことが大切です。比べることで、勝ち負けが生まれます。比べていいことはほとんどありません。」「『あなたにはあなたの良さがあるから大丈夫』と声をかけることで、子どもは成長する過程を楽しむことができます。」「きょうだいの比較も同様です。大事なことは、きょうだい一人ひとりの個性を大切にすることです。」「一年前と今を比べる。『去年はできなかったことが、今はこんなにできるようになったんだ』と伝えることで、子どもは自分の努力が認められていると感じ、自信を持つことができます。」「（「自分で考えて学ぶ子に育つ 声かけの正解」著：庄子 寛之【ダイヤモンド社】より）

個別懇談会、大変お世話になりますが、よろしくお願いいたします。